

報道関係各位

全国の検体測定室数が 1,500 箇所を超えました

検体測定室連携協議会

検体測定室連携協議会(座長:矢作直也 筑波大学准教授)は、全国の検体測定室数が1,500 箇所を超えたことを報告します。

検体測定室(ゆびさきセルフ測定室)とは、自己穿刺により指先から採取したわずかな血液を用い、糖尿病や脂質異常症といった生活習慣病に関係のある項目を検査できるスペースです。

検体測定室の活用により、生活者のヘルス・リテラシー向上と適切な受診勧奨による疾病の早期発見、重症化予防につながり、健康寿命延伸を実現する一助となることが期待されます。

2014年に国の新たなしくみとして新設されて以降、全国各地で薬局やドラッグストア等を中心に開設が進み、2017年5月末時点での検体測定室数は1,513 箇所となりました(図1)(厚生労働省 医政局 地域医療計画課調べ)。

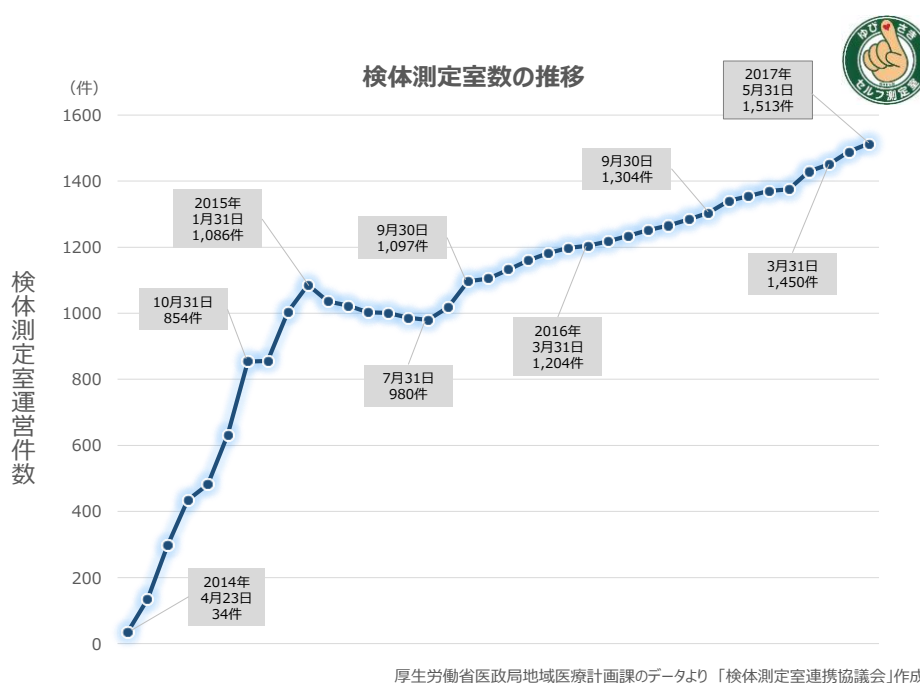
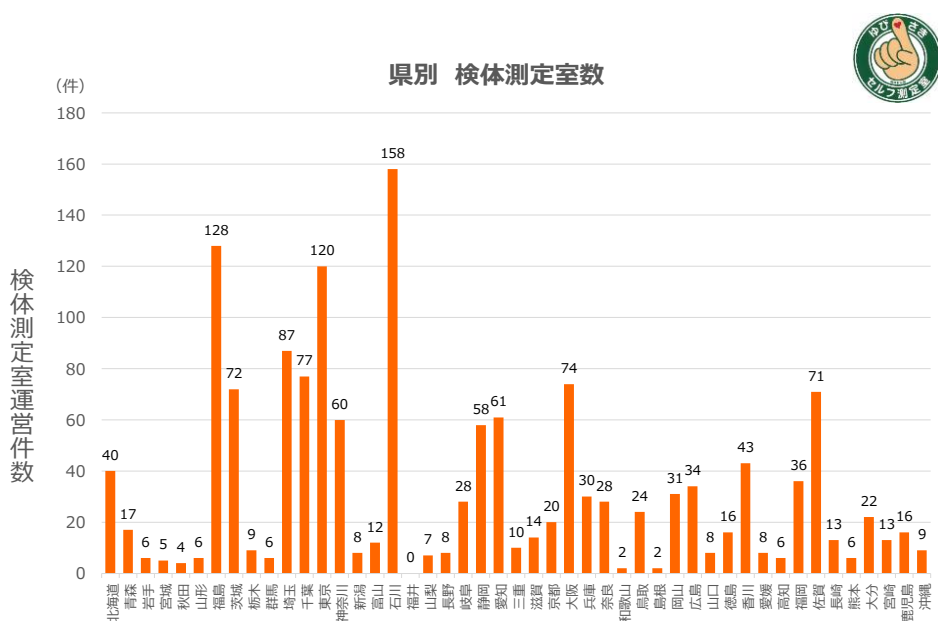


図1. 検体測定室数の推移

都道府県別の検体測定室数では、石川県(158 件)、福島県(128 件)、東京都(120 件)が上位を占めました(図 2)。

その中で HbA1c(ヘモグロビンエイワンシー)を測定することが可能な施設は 1,144 箇所(75.6%)でした(表)。HbA1c とは、赤血球中の Hb(ヘモグロビン)に糖分がどのくらい付着しているかを見る検査で、過去 1~2 ヶ月の平均血糖値を反映する検査項目です。直前の食事摂取の状況に影響されないため、食前でも食後でも同じ値が得られ、糖尿病やその予備群の疑いがあるかを知るのに有用です。



厚生労働省医政局地域医療計画課のデータより「検体測定室連携協議会」作成

図 2. 県別 検体測定室数

	測定室数	割合
血糖値	814	53.8%
HbA1c	1,144	75.6%
TG	920	60.8%
LDL-C	857	56.6%
HDL-C	915	60.5%
検体測定室の総数	1,513	100 %

表. 検体測定室で実施が可能な検査項目と測定室数/割合
(その他、AST/ALT/γ GTP:118 箇所)

現在、地域住民のファースト・アクセスの場として健康に関する相談を幅広く受け付け、必要に応じ、かかりつけ医をはじめ適切な専門職種や関係機関に紹介するとともに、健康に関する情報提供を積極的に行う健康サポート機能を有する薬局やドラッグストアが増えております。今後は健康サポート機能を有する薬局やドラッグストアを中心に、検体測定室数の更なる増加が予測されます。

検体測定室連携協議会は、生活者の健康寿命延伸を実現するために、引き続き、以下の活動を行わせて頂きます。

- ・ 検体測定室の有用性を証明するデータの取得・公表
- ・ 開設および運営の促進、薬局・薬剤師等への情報提供
- ・ 振興を支援するツールの作成・普及
- ・ 認知向上及び生活者を対象とした啓発
- ・ 国・自治体・医師会・薬剤師会等への協力要請

報道関係の皆さまには、引き続き、検体測定室連携協議会の活動に対しまして、ご協力並びにご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

【参考】 検体測定室連携協議会 WEB サイト

- 検体測定室運営者向けサイト:「検体測定室連携協議会」
<http://www.yubisaki.org/>
- 一般生活者向けサイト:「ゆびさきセルフ測定室ナビ」
<http://navi.yubisaki.org/>



<本件に関するお問い合わせ先>

検体測定室連携協議会 担当:辰巳、神田、加藤、海老塚 Tel:03-5833-7045